



SSKP つくしんぼの会報紙

つくつく通信

No.94

ホームページ <http://www.normanet.ne.jp/~tsukushi/> メール fs2941@nifty.com

つくしんぼはハンディをもつ子どもたちのための放課後活動のスペースです

編集～NPO法人はらっば
フリースペース
つくしんぼ

町田市小川1511番地
TEL/FAX 042-796-8468

いま、自分に何ができるか

女川へ行ってきました

4月28日から5月1日にかけて、宮城県の石巻市および女川町まで足を運ばせて頂きました。

つくしんぼの造形の時間にいらして下さっている木村先生の「実家が女川にあり、家族で救援物資をワゴン車に積んで石巻と女川の親戚をまわるとのことなので、運転手役に使って頂きました。

体調的にどうにも自信のない私の場合、ボランティアとして行ってもかえって迷惑をかけてしまうだろうし、こんな機会でなければ自分(山下)が被災地に赴くことはまずないと思い、無理を言ってお知らせして頂いた次第でした。

壊滅…という言葉の意味

石巻市に周囲をぐるりと囲まれている原釜と漁業の町・女川町は

人口約一万人。そのうちの2割近くの方が津波の犠牲になってしまったとのこと。往きに立ち寄った石巻市内の木村先生の親戚の家で、石巻市役所の職員をされている姪っ子さんが口にした「石巻もひどいけど、女川はけた違いだから…」の言葉の意味を、峠を超えて町が一望できる場所へと着いた瞬間に理解しました。ニュースで使われていた「壊滅的状况」というのは、津波に被災したという意味ではなく、一つの町が丸ごと消えてなくなっているという意味であることを……。

義援金は遺児たちへ

4月半ばにNPO法人はらっばの総会があり、昨年度のつくしんぼをささえる会あてに頂いた会費を義援金に回したいという提案が

承認されてきました。そして、どうせなら、つくしんぼとして縁のある木村先生の故郷の女川のためにピンポイントで役立てて貰いたいということになりました。

木村先生から教育長さんに連絡を取って頂き、女川町内で両親を失った6人の小中学生につくしんぼからの義援金を直接お渡しして下さることができました。6人は、三組の2人きょうだい。そのうち一人は特別支援学級の生徒さんでした。それぞれが親類の家に引き取られているとのこと。

両親を突然失ってしまった悲しさやどれほどのものか、私には想像が付きません。私が知っているのは、長男を突然失ってしまった悲しみだけなので……。

津波に流されてしまった女川の福祉施設へ、または大勢の家族を失った女川の小学校の生徒たちへという案もあったのですが、今回

は6人の遺児たちに対して、ということにさせて頂きました。

橋本クンに会いました

右の写真は上から、女川湾を見渡せる公園からの景色、町全景、木村先生のご実家があった場所、自閉症の青年とお祖父ちゃんと私の避難所でのスリーショットです。

木村先生のご実家は、ほんと港の横。通りを隔ててすぐに海という場所。当然、そこにあつたのは持ち主不明の瓦礫のみ。先生の親戚筋の方は幸いにも犠牲者は一人もなかったとのことでしたが、いくつもの避難所をまわってみても、実家のご近所に住んでいらした方とは今回誰一人会うことができませんでした。

そんななか、避難所となつている女川一小の一室で、後ろ姿からして自閉症とわかる青年と出会いました。橋本雅生クン。15歳。な

サポーターご支援

ありがとうございます

平井様、山本様、原田様、佐治様

ボランティアご寄付

ありがとうございます

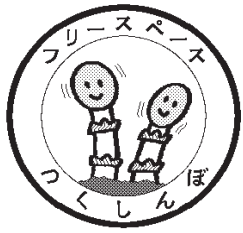
三箇山様、山下様、山本様、宮崎様、行田様、西川様、藤田様

(4月～5月)

ぜひ見覚えあるなあと感じたところ、テレビのニュースで取り上げられていた「避難所でピアノを弾く自閉症の青年」だったので。今は避難所を出て親戚の家に身を寄せているものの、お祖父さんがずっと避難所で生活しているの、今日は会いに来たとのこと。なんか嬉しくって、ついついお母さんに頼んで写真を撮らせて貰ってしまいました。

なお、橋本クンの新聞記事を裏ページに掲載させて頂きました。

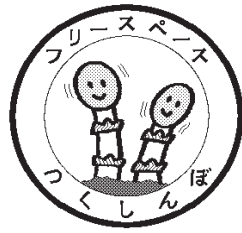




SSKP

つくつく通信

「つくしんぼ」はハンディをもつ子どもたちのための放課後活動のスペースです



★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★
つくしんぼの活動は月曜～金曜日
放課後～午後5時30分まで
ボランティアさんを募集中です
興味ある方はご連絡ください
★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★



つくしんぼ 交遊録

女川に目を向けてくださったこと 心よりお礼申し上げます

木村 巴

はじめまして、私は火曜日につくしんぼに伺っている絵画担当の木村巴です。月に1、2度楽しく過ごさせていただいております。お仲間に入れていただいてから1年経ちます。高尾先生にお世話になり、紹介いただきました。

私は洋画(油彩)を専門とし、断続的ですが一人で制作活動をしてまいりました。1年半前義母を看取ってから、制作を中心とした生活に決め、今に至っています。62歳の転換でした。

今私の考えていることを皆さんにお伝えする

には、多すぎてかなり絞り込まなければなりません。そして何を語るにも、3月11日の震災を抜きにしては何も語れなくなっております。

主人の実家は宮城県女川にあり、私は1年半前まで義母の介護で長いこと月の半分はそこで過ごしておりました。人の思いというものは思わぬ方向に進んでいくもので、嫁として40年近くたっても女川の地に心から馴染むことはなかったように思います。義母が亡くなって、もうこの地にはほとんど来ることはいないだろうと、大きな役目を終えたとき思ったものです。

3月11日、時々刻々とその被害の深刻さを知りました。無事でいた漁師の最初の言葉です。「女川さ、ねくなったー!」

私の生活は思いもよらぬ方向になり、40年近くの縁は簡単に切り離せず、私の歴史となっていることを知らされました。

4月末ガソリンの供給が落ち着き始めたころ、山下さんにご一緒していただき、親戚を見舞う目的と、山下さんのおっしゃる「ピンポイントの支援」がキーワードとなり、「見える支援を」ということで支援の輪が広がりました。山下さんの映画をご存じであった下高井戸シネマ、落語会などの他団体からの義援金をお預かりし、

届けることも目的でした。

道々の被害状況のすごさに息をのむ思いでした。が、女川はその比ではないくらいに惨状、どこの位置に立っているのか分からない、人もいない、足元に海が迫り、ボランティアもいない。悪臭が町を覆い、かろうじて流されなかった鉄筋の建物が絶望的に横たわっていました。明らかに復興の手が未ださしのべられていない状況でした。

そして3ヶ月以上たった今、女川は遅々として復興が進まないのです。働くところ、店も、車もない。衛生状態も悪く、多くの人々は今、さらに辛くなっているように思います。

被災地の方々が未だ先の見えない現状に、立ち向かい、忍耐し、未来を切り開こうとしていらっしゃる。

今、アースデーマネーというNPO法人が被災地と東京を結ぶバスを震災3日目から運行しています。そこのお世話になり支援物資を送ったり、義援金を届けに行ったりしています。今回は支援物資として集まったメガネを現地に届けに参ります。

私は思います。継続した支援が必要であることを。

【被災地の子どもたち】

避難所に響くピアノの音色

自閉症生徒「僕弾けます」

東日本大震災の避難所になつて
いる宮城県女川町の女川第一小で
は毎朝、ピアノの音色が穏やかに
響く。自閉症の同町立女川第一中
2年生橋本雅生君(14)。「ピアノ
を聞いたとき、今日も生きてい
るんだと思つ」と被災者の声。橋本君
は音楽を通じて人の役に立てるこ
とがうれしくてたまらない。

25日午前7時半。校舎3階にあ
るオープンスペース隅にあるピ
アノで橋本君は「トルコ行進曲」な
どを小さな音で弾き始めた。曲こ
とに、徐々に音色が大きくなって
いく。吸い寄せられるように被災
者らが集まり、力強くラジオ体操
の曲も演奏した。

被災者の女性(70)は「気が安
らぐし、穏やかになる」と笑顔。
横田紀子さん(70)も体を動かし
た後「ピアノ(の伴奏)で体操で
きるなんて。毎朝楽しみにしてい
る」と話し、避難所での癒やしに
なっている。

津波で家を流され、おばあさん
を亡くした橋本君は、家族とともに
同小に避難している。ピアノを
始めたのは小学4年の時。担任の
先生から「楽譜が読めますよ」と
聞いた母親の安代(やすよ)さん
(44)は、橋本君をピアノ教室に
通わせた。

思春期を迎え、物を投げるなど
パニックを起こすこともあるが、
ピアノの前に座ると落ち着く。買

い集めたクラシックやポップスの
楽譜やCDは橋本君の宝物だ。

震災から数日後の夜、橋本君が
避難所で泣きだした。大好きなお
ばあちゃんに会えない。家に帰れ
ない。電子ピアノが弾けない。楽
譜やCDも流されてしまった。

失った物の大きさに少しくつ気
づき、気持ちが不安定になつてい
た。安代さんも「ピアノを弾かせ
たいが、悲しみに暮れる人も多い
避難所で演奏させるのはどうだろ
うか……」と悩んだ。

停電が続く、CDプレーヤーで
流せなかったラジオ体操の曲。同
小の先生がピアノで演奏したが、
失敗してしまつたある日の朝、橋
本君が「僕、弾けます」と手をあ
げた。それ以来、毎朝7時半ぴつ
たり橋本君の演奏は始まる。ピ
アノに触れるようになり、泣くこ
とも少なくなった。

橋本君は人気グループ「いきも
のがかり」の曲「ありがと」を
よく弾く。優しいタッチ。間違え
ても、何度も弾き直す。安代さん
は「ありがと、と言いたいのか
も。家を失い、一からの出発だけ
避難所のみなさんがピアノを喜ん
でくれることが雅生にとっての癒
やし」とほほ笑む。

「お兄ちゃん少し障害があるけ
ど、それに負けないくらいピアノ
が弾けるんだ」。橋本君の弟、昇洋
(のりひろ)君(12)は誇らしげだ。

H23年4月10日付

共同通信配信記事より

「はらっぱ&つくしんぼ」 サポーターご支援のお願い

フリースペースつくしんぼは
ハンディをもつ子どもたちの放
課後活動施設です。
1996年に自主グループと
して開所、1998年に東京
都通所デイグループ事業認可、
2007年からは運営主体をN
PO法人はらっぱに移行し、運
営を続けています。

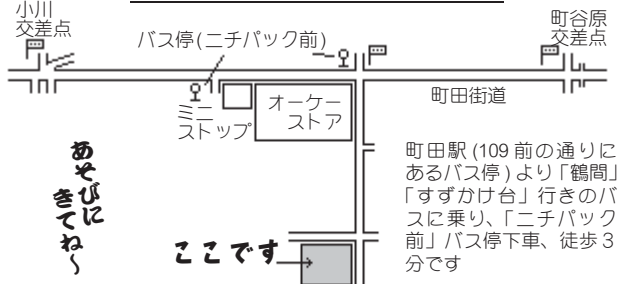
NPO法と税制改正法を受
け、はらっぱも「認定NPO法
人」取得を考えています。取得
後は寄付者に寄付金控除が適用
されます。

よろしかったら「サポー
ター」になってください。一口
3000円でお願ひさせていただきます。
3000円×100人が認定N
POとしてのクリア条件となっています。

サポーターの皆様には、この会報紙「つ
くつく通信」を送付させていただきます。今
年こそは頑張つて年四回は発行させて頂
きますので……。

郵便振替口座番号 00120-7-168283
加入者口座名称 フリースペースつくしんぼ

♪つくしんぼの地図♪



東急田園都市線「すずかけ台」駅から徒歩15分程です

発行 東京都世田谷区砧6-26-21
障害者団体定期刊行物協会 定価 50円